

## 公共施設再配置計画素案説明会議事録

日 時 平成 30 年 2 月 21.22.28 日 午後 7 時から  
場 所 矢板公民館・泉公民館・片岡公民館  
出席者 三堂地総務部長 谷中主幹 船山副主幹 宮本主任 兼崎主任  
参加者 86 名

### 課長挨拶

説明会の実施にあたり、十分な周知ができなく申し訳なかった。

矢板市においては、国からの指示において、昨年度、公共施設を総合的に管理マネジメントする「矢板市公共施設等総合管理計画」を策定し、今年度から公共施設再配置計画の策定を進め、今回その素案が完成した。

矢板市の建築物は、昭和 40～50 年代に建てられ、文化会館や公民館、公営住宅、学校等を建ててきた。特に公営住宅は、人口率で見ると、県内で 1 番多く入居できるキャパシティをもっている。これら施設は、老朽化が進んでおり、現在、長寿命化を進めているが間に合わない状況である。また、これら施設を同じ規模で維持していくことは、市の財政状況から難しい状況であり、計画では、今後 30 年間で公共施設の延床面積で 40 パーセントの削減を目標に、施設を更新するのか、廃止するのか、統合するのかの方向付けを行った。

計画は今年度末に正式決定となり、来年度以降は、施設ごとに個別計画を策定していくこととなる。これから 30 年後なので、現在ある施設はこのままの姿ではなくなっている。施設によっては無くなる場合もある。また、建替える場合にも、施設の複合化を図る等、現在の状況と大きく変わってくることになる。この計画は今までにない計画であり、実感もわからないと思うが、市の財政状況から、現在の施設をそのまま維持していくことはできない、これから、担当から施設ごとの説明がある。計画策定に当たり、3月9日までパブリックコメントを実施している。計画に意見があればどんなことでもよいので、文章でコメントをいただきたい。

### 事務局

#### 施設ごとの再配置方針説明

#### 質疑 (矢板公民館)

市民 これだけの規模で施設を削減しなくてはならなくなったが、施設建築時、いつの時期に建替えが必要となるか、また、建替え費用が掛かることは予測できたと思う。行政として、これらのことを考えないで、建築を進めてきたことに対しどう考えるか。

課長 施設の計画的な管理について考えてこず、早くから基金の積み立てを実施してこな

かったことは反省しなければならない。しかしながら、国からの指示を受け、計画を策定するまでは、施設については、直しながら朽ち果てるまで使い続けていけば良いと考えていた。ところが、トンネル崩落事故等、老朽化による施設の危険性が問われるようになり、適正時期での更新を考える必要が出てきた。また、施設を建設してきた時期は、市は財政的にも豊かで、施設の更新等も十分可能であると考えていた。しかし、急激に市の財政状況は悪化し、ここ10年で10億の歳入が減った。また、社会保障費の支出に関しては25億円ほど増えており、公共施設に掛けられる金がなくなり、基金等の財源を捻出することも難しい状況になってしまった所である。

市民 人口減少等により財源が減少するとのことであったが、計画策定に当たって、財源等の試算はどのように行ったのか。また、フットボールセンターに関しては、民設民営となっており、市では金を出さないとのことだが、なぜ、計画に盛り込んだのか。

課長 財源の試算に当たっては、過去の財政支出分を均し、それに人口減少に伴う財源の減少見込みを考慮し策定している。また、この試算に関しては国庫補助等を含めず、市の単独財源分で試算を行っている。今後、施設の建替えに際し複合化等行う場合は国庫補助等も受けられる為、今後、これらの制度を活用すれば十分な行政運営が可能と判断している。

フットボールセンターに関しては、ヴェルフェたかはらによる民設民営化となっているが、とても規模の大きな施設のため、今後、防災機能や健康増進施設の機能も盛り込みたいと考えており計画に盛り込んだ。

市民 防災機能等を盛り込むとのことであったが、それに伴い補助等もするのか。

課長 計画は決まっていないが、これら機能は盛り込みたいと考えているので検討していかなければならない。

市民 取り壊し費用も盛り込んでいるのか。コストも数値で示してもらえればわかりやすい。コストの大きな施設はどんなところがあるのか。

課長 主としては、文化会館は造りも豪華でコストが掛かる。また、学校や公営住宅に関しても規模が大きくコスト掛かり、住宅に関しては、部屋一つ一つごとに維持費用がかかるため大きなウエイトを占めている。

また、取り壊しに関しては、計画に盛り込みことにより除却債が受けられることになり、それらを活用し、取り壊しを進めていくこととなる。

市民 公営住宅に関しては、取り壊しを行っていくとのことであるが、使えるような住宅については、生活保護やその手前の生活困窮者に低価格で利用させるなど別の活用も考えてみてはどうか。

課長 公営住宅については、全国的に、民間の空アパート等に家賃補助を行い、それを活用し、公営住宅を減らそうとする流れになってきている。矢板市においても、多くの民間アパートが空いており、今後、それらを活用し公営住宅自体は削減する流れとなってくると思われる。

質疑（泉公民館）

市民 計画書の施設類型ごとの削減面積と施設配置図との関係について教えて欲しい。

市 公営住宅に関しては、配置図に平屋の公営住宅も削減面積が掲載されているが、既に政策空家として取壊し方針が定められているもので、今回の計画削減の対象には含まれていない。また、消防施設に関しては、施設単位で方針を提示することができなかったが、30年間で全体の3割を削減することを目的と定めている。さらに、施設を統合、複合した場合、2施設の集約で延床面積2割、3施設以上で3割の削減を行うこととし試算を行った。

質疑（片岡公民館）

市民 施設の統廃合、小さな拠点造りを行うにあたり、今後、進行する高齢化社会を見据えた使いやすいものとしてほしい。

課長 施設配置にあたっては、コンパクトシティを意識した拠点整備を進めると共に、施設から離れた住民に対して、それをカバーする交通手段の確保を計画に盛り込んでいる。

市民 計画策定後、計画方針に従い、施設を統合、複合、集約等を進めていくことになるが、それに伴い縦割り行政にならない様にしていく必要があると考える。

課長 個別計画を推進するにあたっては、今後、専門的に公共施設全体を見渡す部署を設置し、計画を総合的に管理していきたい。

市民 今後、個別計画の策定を進めていくにあたり、専門家の見地を取入れた計画策定を進めていく必要があると思う。今後どの様な組織を立ち上げ、計画を進めていくのか。

課長 個別計画策定に当たっては、専門家を招へいし、計画策定を進めていきたい。

課長 今後、この計画を受け、今後個別計画を策定し計画を進めていくことになる。今回の計画によって、施設の数には減っていくが、一つの施設に複数の機能をまとめ、一カ所でいろいろなことができる、今までより便利になるものとして捉えてほしい。